

永原学園地域子育て支援センター  
 さんこう・ぽぼらだより  
 令和6年6月発行・第206号  
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園  
 TEL:0952-31-6877



★6月・7月の子育て支援事業のお知らせ★

①実施日

- ・6月14日(金)…なかよしミックス(先着10組)
- ・6月21日(金)…赤ちゃんの日:ベビーダンス(先着10組)
- ・6月25日(火)…リフレッシュ講座(先着6組)
- ・6月27日(木)…ベビーマッサージ講座(先着5組)
- ・7月3日(水)…東与賀よかよかサークル
- ・7月16日(火)…なかよしミックス(先着10組)
- ・7月17日(水)…赤ちゃんの日(先着10組)
- ・7月18日(木)…トイレトレーニング(先着6組)

②時間:10時~12時

③開催場所:子育て支援センター、運動場

※事前の電話での申し込みが必要です。

6月分:6月3日(月)、7月分:7月1日(月)9時~17時

※様々な状況により計画の変更や中止が予想されるため、お出かけの前に必ず、ホームページで支援事業の有無をチェックしてください。

☆6月・7月の「フリーデー」について

保育園の支援センターを開放します。※事前の予約はいりません

日時:6月4日(火)・5日(水)・6日(木) 10時~12時

7月23日(火)・25日(木)・26日(金) 10時~12時

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

(平日の9:30~17:00まで)

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九州大学短期大学部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

さんこう・ぽぼら(園庭を含む)開放の時間帯について

【開園日】〇月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】〇9:00~12:30

- ・園行事の為、ご利用できない場合があります。
- ・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。  
12:30~13:30 昼休み・準備の為閉園
- 13:30~16:00

※この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。

『 体験を大切にしましょう』

5月に実施した“ジャガイモ掘り体験”ととても多くの親子の方に参加して頂いたそうです。手で感じる畑の土やジャガイモの感触(触覚)、匂い(嗅覚)、畑の周囲の景色(視覚)、鳥のさえずり(聴覚)、そして掘りたてのジャガイモを各ご家庭で頂いた味(味覚)。まさにフルに五感を使った体験ですね。保育の現場では、朝からはだしになって砂場でトンネル掘りやままごとを楽しみ、泥団子を作っては品評会のごとく意見交換会を催し、あーでもないこーでもないと試行錯誤が生まれています。

保育者育成に力を頂いている汐見先生(元東京大学教授、元白梅大学学長)が保育者や子育て中の方に対し次のような課題について懸念をされていました。

- ・便利な暮らしが人間から考えるチャンスを奪っている
- ・体験がなければ言葉本来の意味の世界は作れない
- ・自分なりの感情をどうやって他者に伝えるか、

現代は情報が簡単に手に入ります。スマホが手にあれば何でもすぐ調べられますね。言葉の本来の意味はその人の体験による価値づけであり、体験がなければ意味の世界は作れないそうです。ネット社会が広がるほど、誰かが作った言葉を借りて知識を詰め込んでいるだけで、乳幼児期には、豊かで多様な体験をして、その体験から自分で意味を作り出していくことが大切だと語られていました。

暑くなってきますが、夏ならではの体験をたくさんしましょう。(三光保育園園長)



環境講座(アロマ)SDGsについての学び  
 オイルで虫よけスプレーを作りました!



ジャガイモ掘り

いろいろな種類のじゃがいもを掘りました!



「シニアサロンぽぼら」について

子育て支援センター「さんこうぽぼら」では、月に1回、地域のシニアの方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

日時:6月20日(木):健康体操・7月4日(木):七夕交流会

「見えないものへのまなざし」

西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科  
准教授 末次 絵里子

山口県出身の童謡詩人、金子みすゞさんは、常に陽の当たらない場所や、陽の当たらない人や物にこそ深い愛情を持って目を向け、多くの詩を遺してくださいました。例えば、「大漁」という詩では、鰯の大漁に沸く濱の人々の姿の裏では、海のなかで仲間の死を悼み、とむらいをしている鰯たちがいることに気付かされます。

大漁	金子みすゞ
朝焼小焼だ/大漁だ/大羽鰯の/大漁だ 濱は祭りの/ようだけど/海のなかでは/何萬の/鰯のとむらい/するだろう。	

また、「星とたんぼぼ」という詩では、昼間は眼に見えないけれども、そこにじっと居て夜を待っているであろう星の存在、「見えぬものでもある」ということに、あらためて思いを馳せることができます。

星とたんぼぼ	金子みすゞ
青いお空の底ふかく、/海の小石のそのように、/夜がくるまで沈んでる、/昼のお星は眼にみえぬ。/見えぬけれどもあるんだよ、/見えぬものでもあるんだよ。 散ってすがれたたんぼぼの、/瓦のすきに、だァまって、/春のくるまでかくれてる、/つよいその根は眼に見えぬ。/見えぬけれどもあるんだよ、/見えぬものでもあるんだよ。	

幼い子どもたちは、大人よりも、みすゞさんの詩の世界に近い感性を有しています。ある子どもは、小さな蟻を見つけて追いかけて、巣穴の中をいつまでも見つめていて、その巣穴の周りを踏まないように、次の日も、その次の日もそーっと歩き、穴の中を守ろうとしています。また別の子どもは、一羽で飛ぶ鳥さんの、家族はどこで待っているのか、ちゃんと帰ることができるのかを心配したりしています。果てしなく広がるイマジネーションの世界と、すべてのものに宿る命の灯を感じるやわらかな感性が幼い子どもには宿っていて、みすゞさんの詩の世界と重なります。

心理臨床においても、物事の表だけでなく裏側も、見える部分だけでなく見えない部分にも、目を向けることを大切にします。一面だけしか見ないならば、真実や本質には気付くことができません。しかし、人は、成長するにつれ、目の前の現実的かつ視覚的に強い刺激に惑わされ、対応に追われ、幼子のような柔軟な感性を見失いがちになるように思います。小さきものの命をかけがえのないものとしてとらえることのできるあたたかいまなざしや、目に見えない領域、イマジネーションの世界を生き生きと感知することのできる奥深く柔軟な心をいつまでも持ち続けることができるよう、子どもたちの内面を大切に大切に守り、育ててあげたいですね。金子みすゞさんの詩を味わうことで、私たち大人も、大切なものを見失わない感性を呼び覚ましていきたいものだと思います。